

令和7年度岡山県献血推進協議会

血液事業の概要

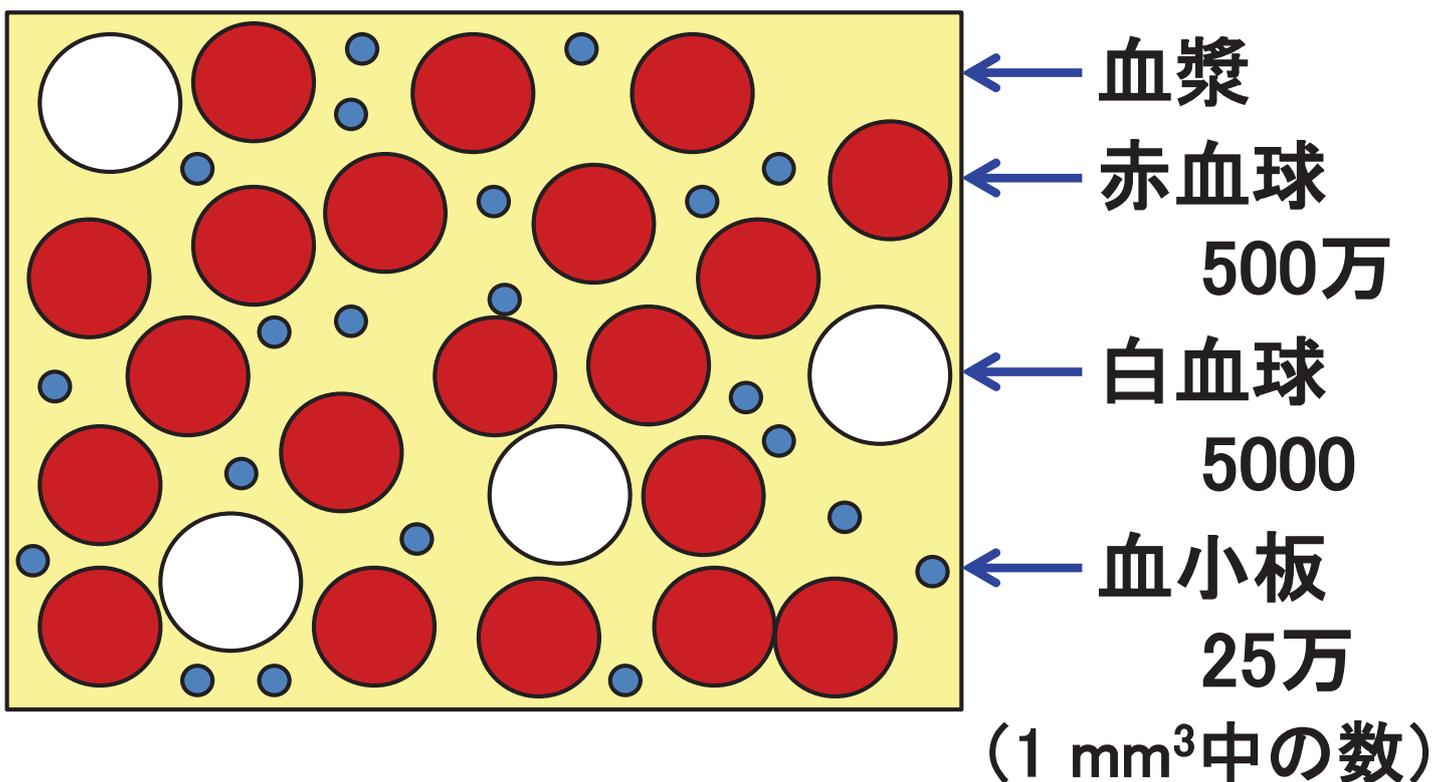


日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

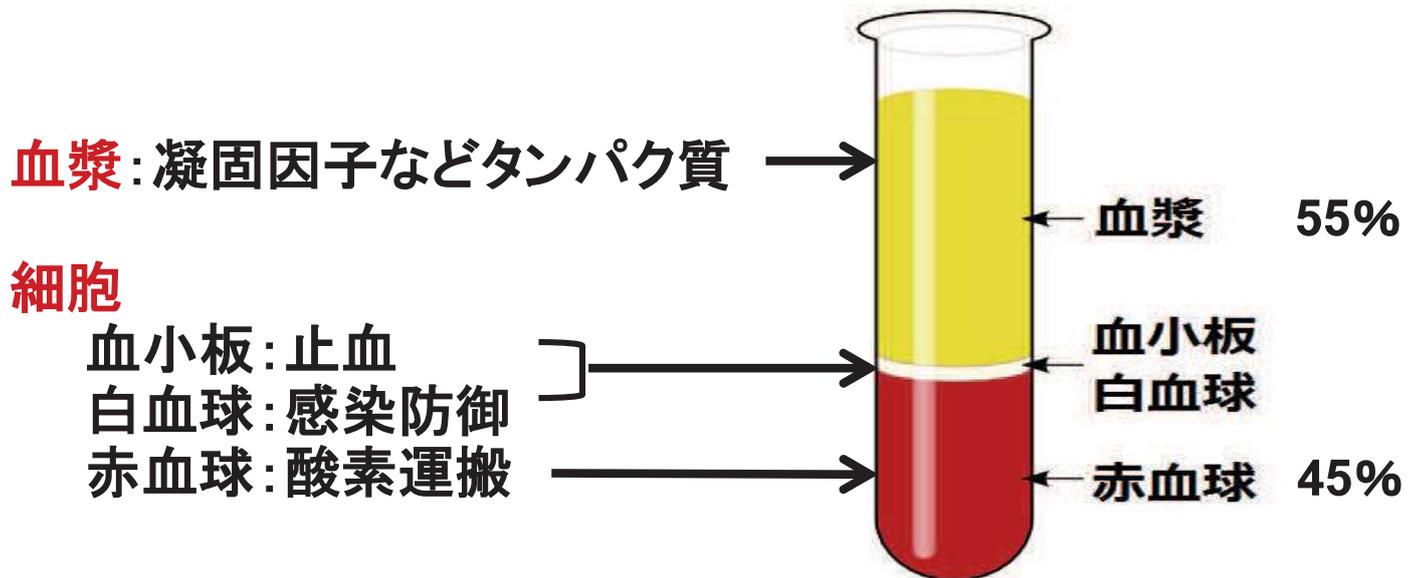
岡山県赤十字血液センター

所長 池田 和真

血液



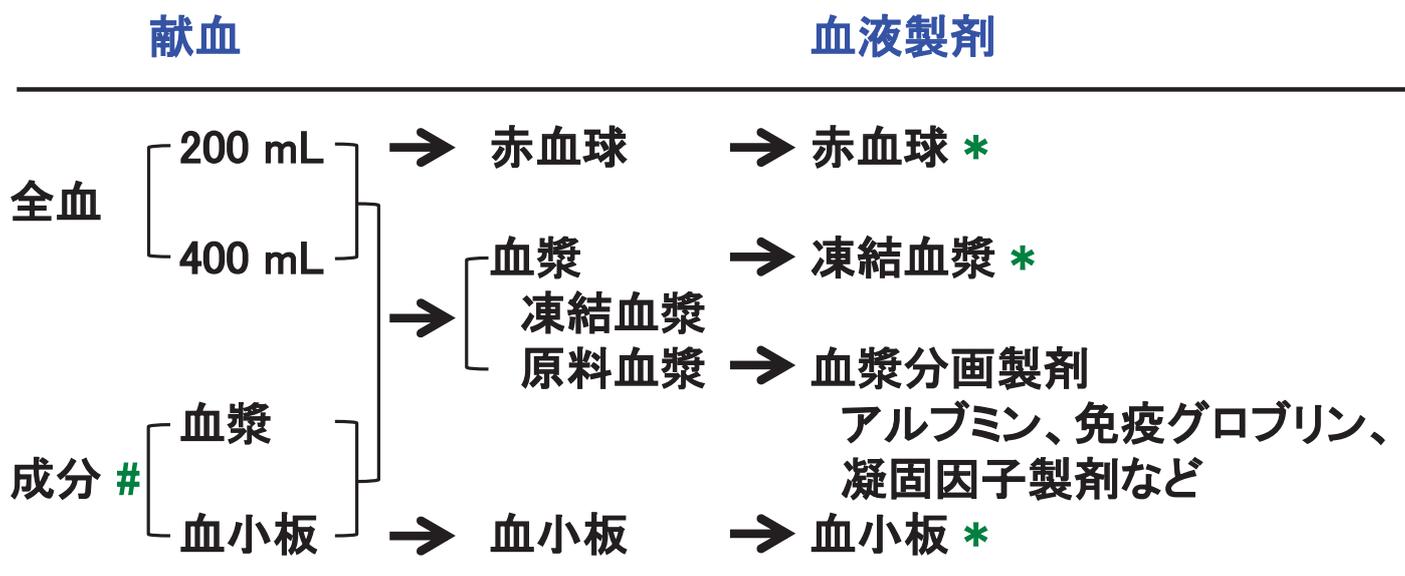
血液 = 血漿 + 細胞



献血方法別の採血基準

採血の種類	全血採血		成分採血	
	200mL	400mL	血漿	血小板
1回採血量	200mL	400mL	600mL以下（循環血液量の12%以内）	
年齢	16～69歳	男性:17～69歳 女性:18～69歳	18～69歳	男性:18～69歳 女性:18～54歳
	ただし、65～69歳の者については、60歳に達した日から65歳に達した日の前日までの間に採血が行われた者に限る。			
体重	男性45kg以上 女性40kg以上	男女50kg以上	男性45kg以上 女性40kg以上	
最高血圧	90mmHg以上180mmHg未満			
最低血圧	50mmHg以上110mmHg未満			
脈拍	40回/分以上100回/分以下			
体温	37.5℃未満			
血色素量	男性:12.5g/dL以上 女性:12.0g/dL以上	男性:13.0g/dL以上 女性:12.5g/dL以上	12g/dL以上 （赤血球指数が標準域*にある女性は11.5g/dL以上） +標準域 MCV: 81～100fL MCH: 26～35 (pg) MCHC: 31～36 (%)	12g/dL以上

献血と血液製剤



成分献血は、固定施設(血液センター及び献血ルームのみ)

* 輸血用血液製剤;原則として、ABO同型を用いる

輸血用血液の種類



赤血球製剤



新鮮凍結血漿



血小板製剤

輸血用血液の種類



出血による貧血や
慢性貧血には

赤血球

血小板の減少・
機能異常による
出血傾向には

血小板

肝障害などによる
凝固因子の補充
には

新鮮凍結血漿

血漿分画製剤

アルブミン製剤



免疫グロブリン製剤



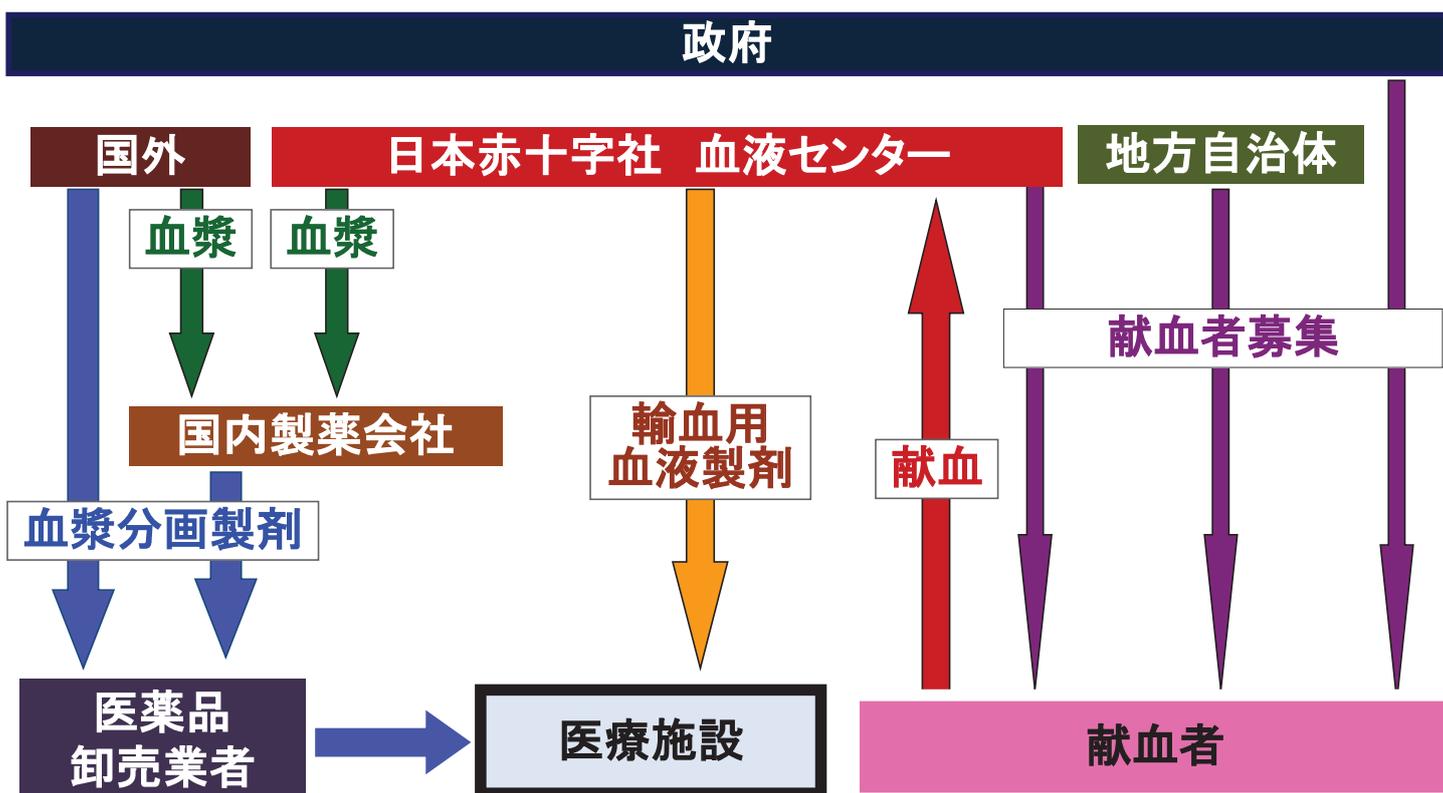
血液凝固第Ⅷ因子製剤



血漿に含まれるアルブミン、免疫グロブリン、血液凝固因子等のタンパク質を分離し取り出した製剤。

アルブミン製剤はやけどやショック等の際に、免疫グロブリン製剤は重症感染症の治療や、ある種の感染症の予防や免疫機能が低下した場合等に、凝固因子製剤は血友病等に用いられる。

日本の血液事業



血液法：基本理念

- 1 安全性の向上に常に配慮して、
製造、供給、使用
- 2 国内自給の原則と安定的供給
- 3 適正使用
- 4 公正の確保及び透明性の向上

関係者の責務

国(厚生労働省)

- 血液事業の基本的政策の策定
- 献血に関する国民の理解及び協力を得るための教育・啓発
- 血液製剤の適正な使用の推進に関する施策の策定・実施

地方公共団体

- 献血に関する住民の理解
- 献血受入を円滑にするための措置

関係者の責務

採血事業者(日本赤十字社)

- 献血受入の推進
- 安全性の向上、安定供給確保への協力
- 献血者保護

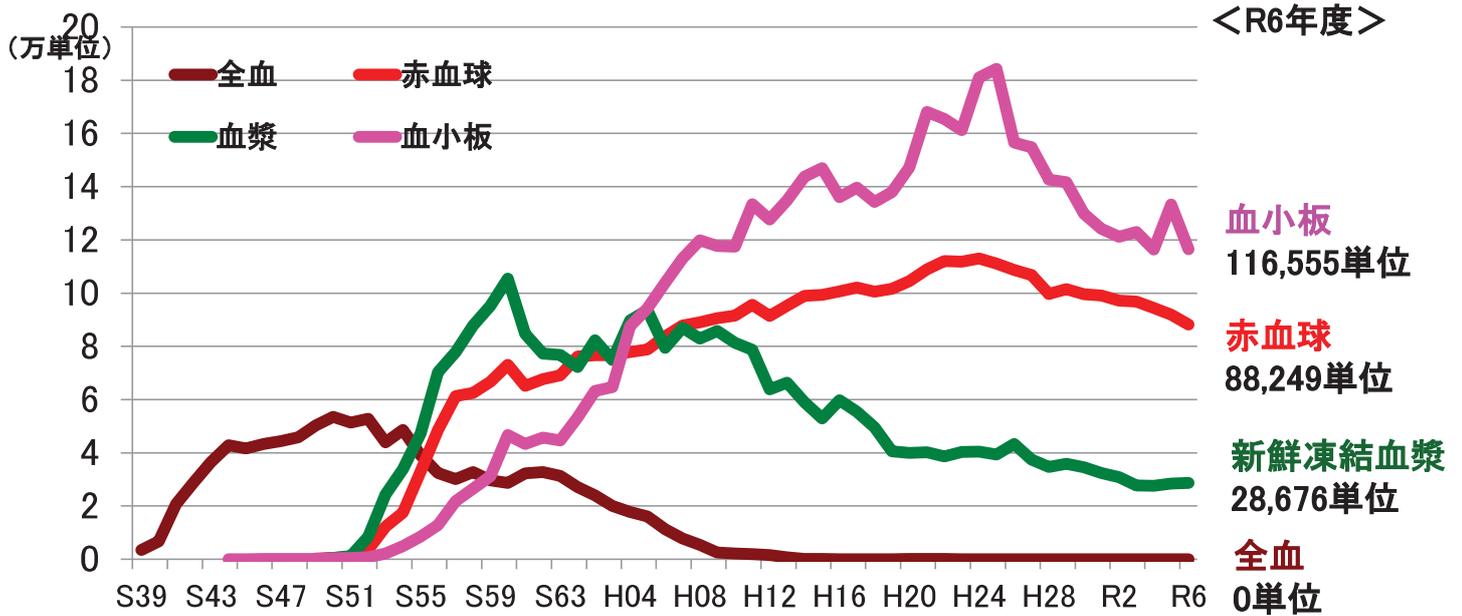
血液製剤の製造販売業者

- 安全な血液製剤の安定的・適正な供給
- 安全性向上のための技術開発と情報収集・提供

医療関係者

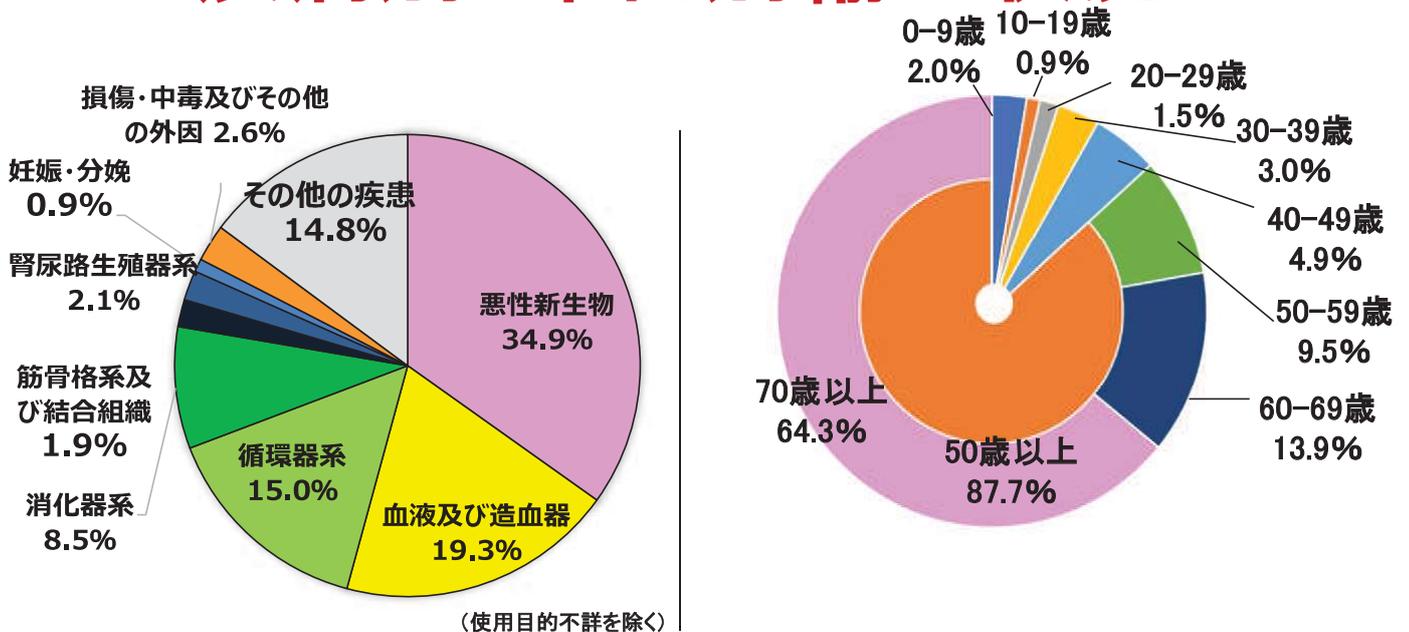
- 適正な使用
- 安全性に関する情報収集・提供

岡山県での輸血用血液の使用量



赤血球は長期に渡り増加したが、ここ数年は減少傾向が続いている。R6血小板は減少し、凍結血漿は横ばいで推移している。

疾病別・年代別輸血状況

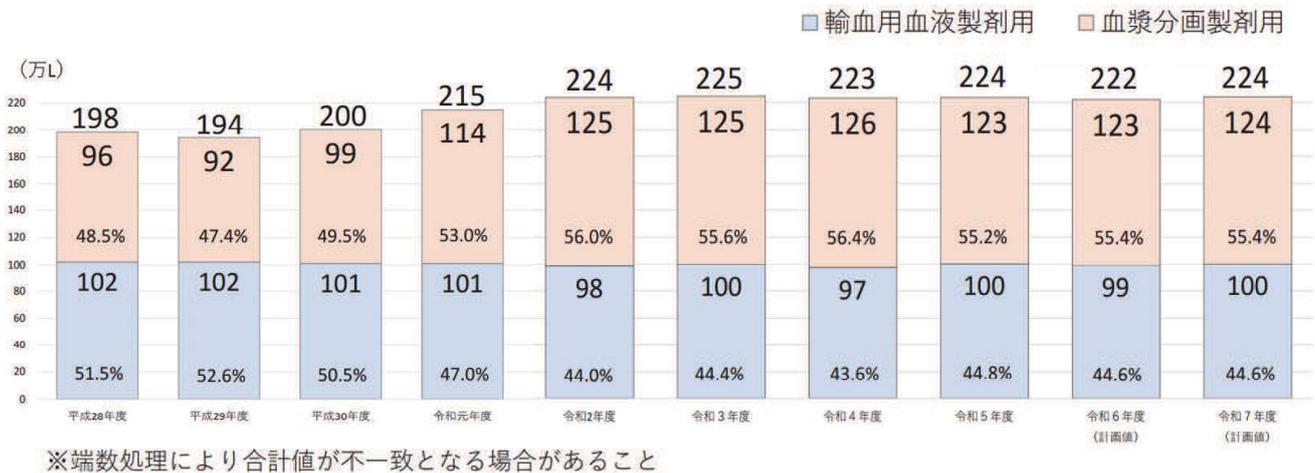


※東京都福祉保健局「令和6年東京都輸血状況調査集計結果（概要）」を改変。構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100とはならない。

輸血用血液の多くは悪性新生物(がん)と血液の病気の患者さんの治療に、また年代別には87.7%が50歳以上の方々に使用されています。

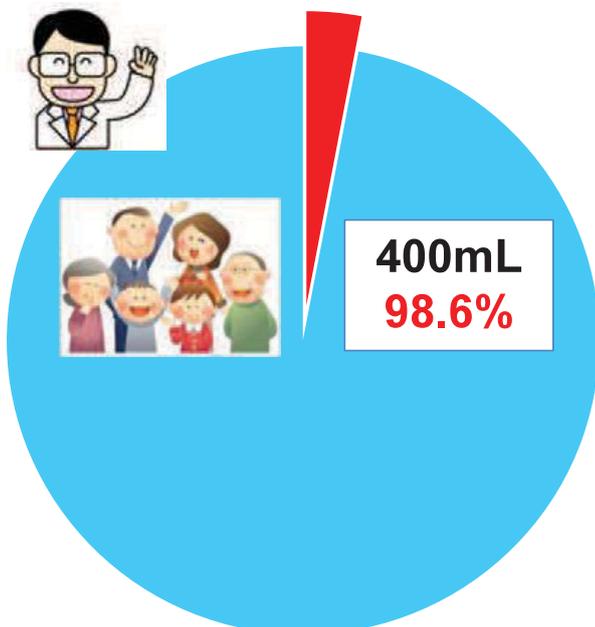
献血血液の確保量の推移（全国）

免疫グロブリン製剤の需要拡大に伴い、令和元年度以降、輸血用血液製剤用と血漿分画製剤用の割合が逆転した。



令和2年度血液事業報告（厚生労働省医薬・生活衛生局血液対策課作成）
令和6年度血液事業報告（厚生労働省医薬・生活衛生局血液対策課作成）より

患者さんが必要とする赤血球の内訳



200mLを2本の代わりに
400mLを1本輸血すると

・輸血副作用の可能性が低下

医療機関で輸血される赤血球製剤

・98.6%は400mL献血由来

※令和6年度データより

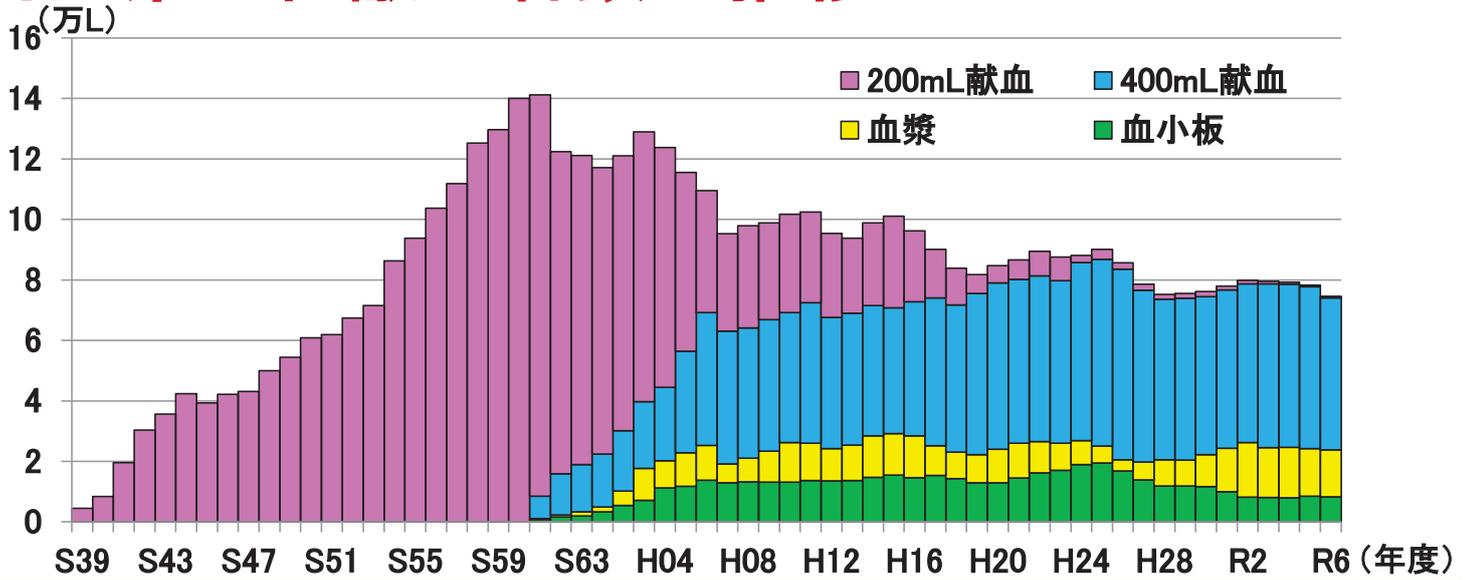
岡山県赤十字血液センターの方針

・基本：400mL献血

・1.4%：200mL献血

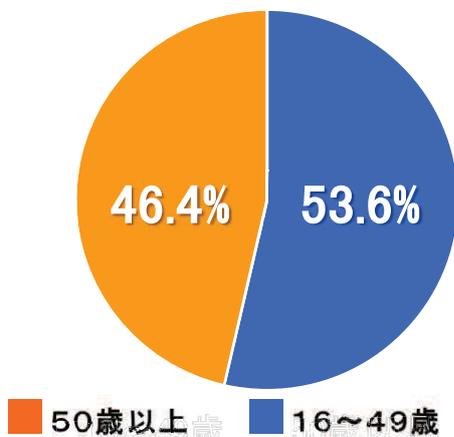
高校生、大学生等の若年層の
初回献血を中心

岡山県の総献血者数の推移

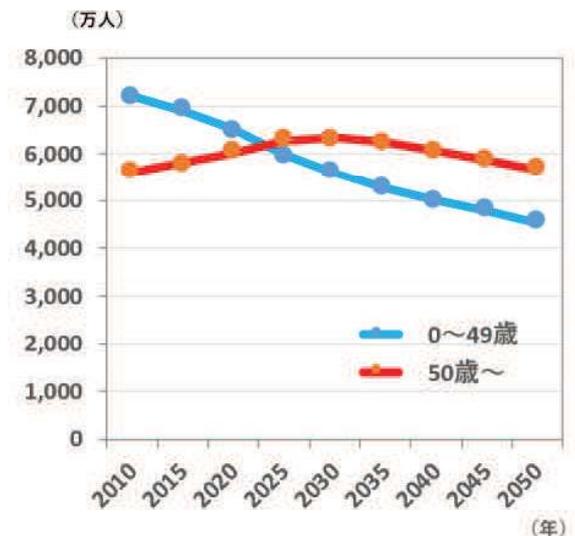


400mL献血及び成分献血の推進により、より少ない献血者で必要量を確保できています。

岡山県の年齢別献血比率 (令和6年度)



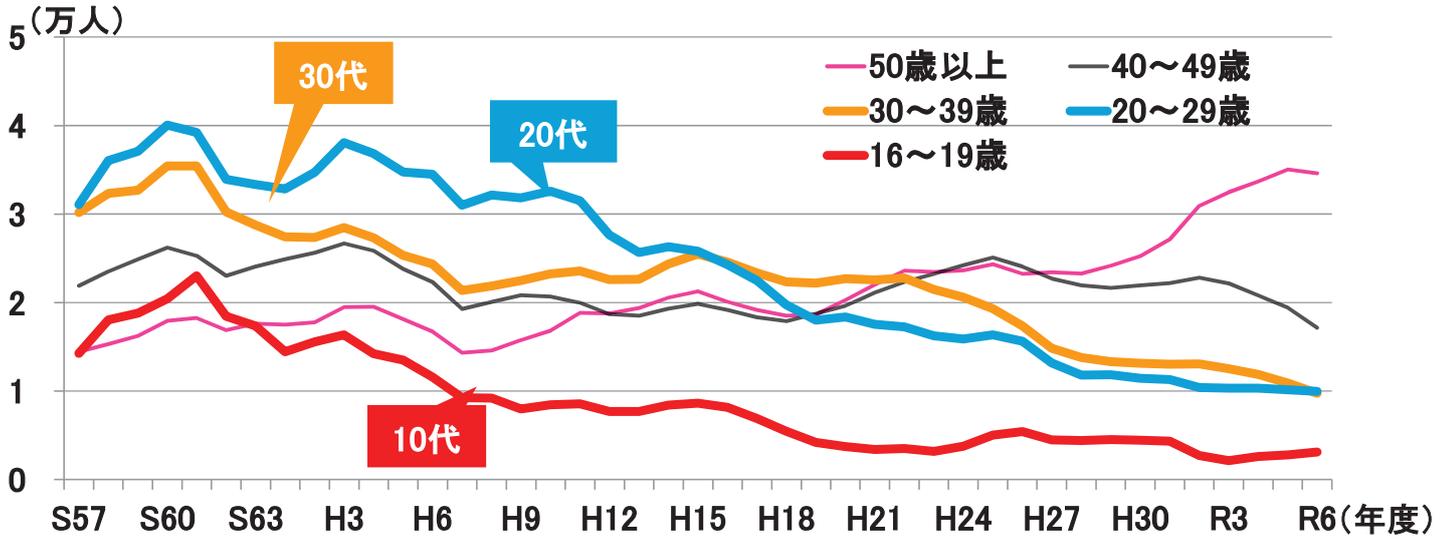
全国の人口推移と推計



総務省統計局: 各年10月1日現在人口「全国: 年齢(各歳), 男女別人口」

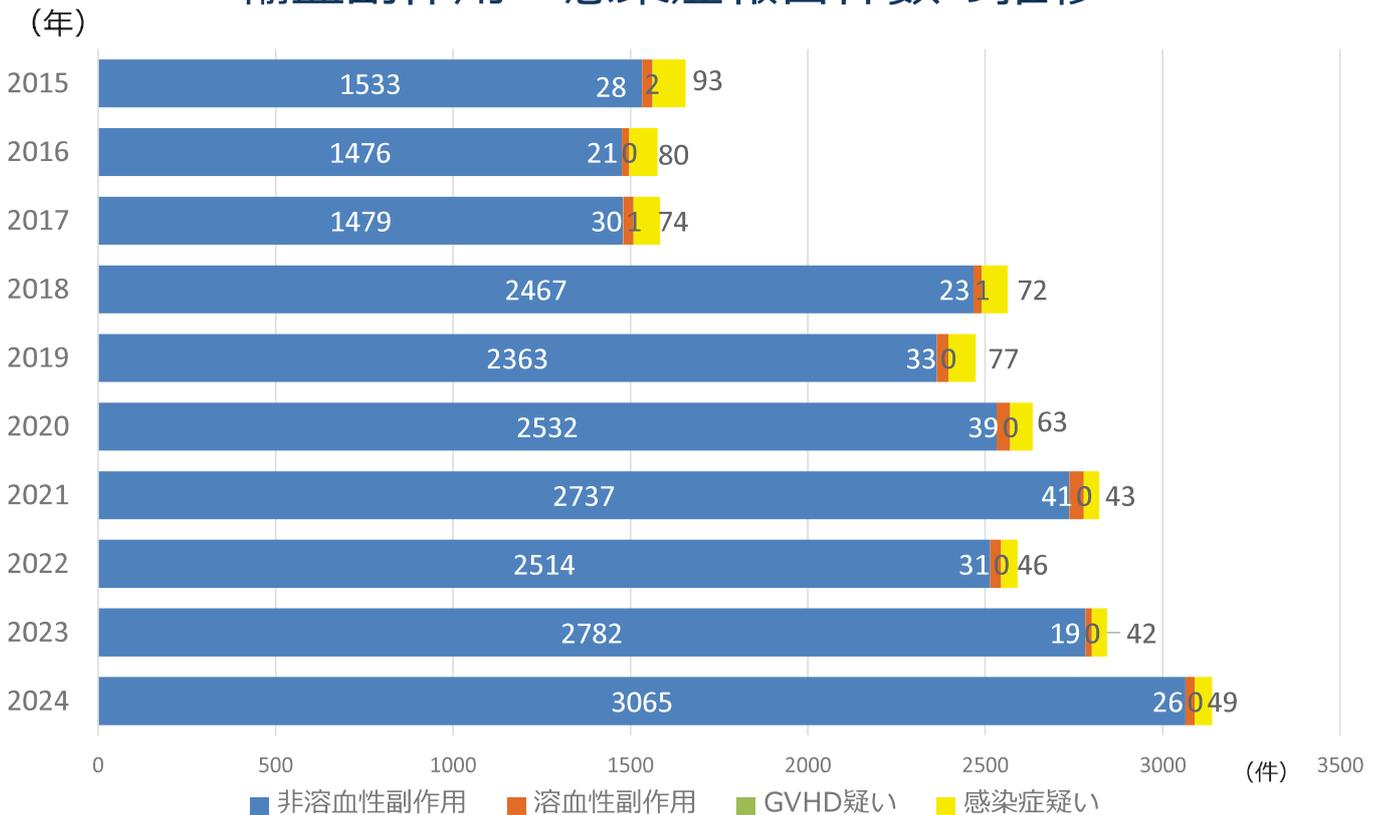
令和6年度の50歳未満の献血者割合は53.6%で令和5年度から7.4%(3,230人)減少し、全国と同様に献血者の高齢化が進行しています。

岡山県の年代別献血者数の推移



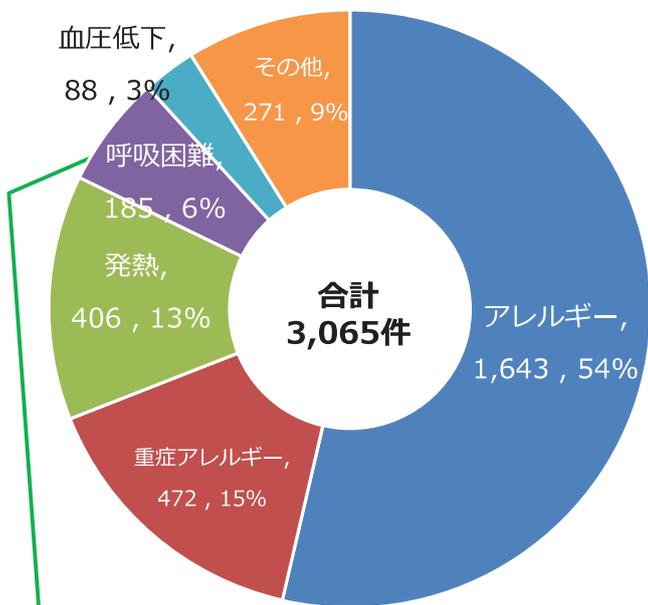
10代～30代の献血者数は、10年前の平成25年度と比較すると、17,837人(約44%)減少しています。特に10代～30代の献血者数の確保に努めています。

赤十字血液センターに報告された輸血副作用・感染症報告件数の推移



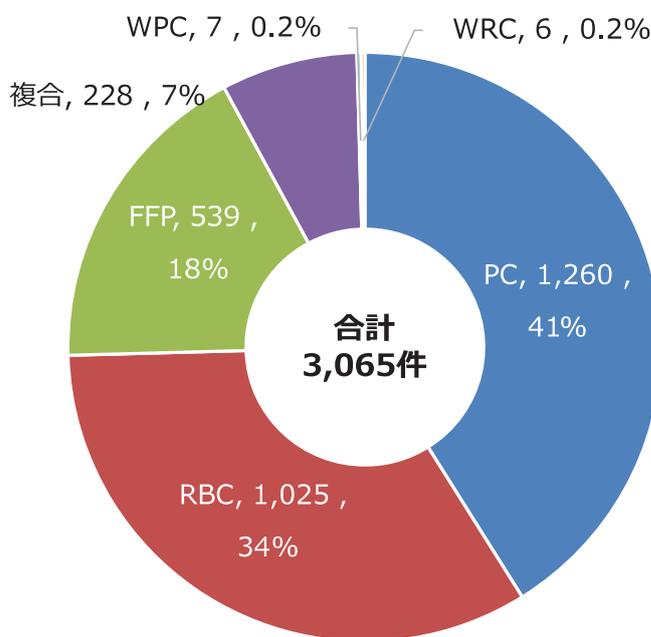
赤十字血液センターに報告された 非溶血性輸血副作用（2024）

副作用の種類

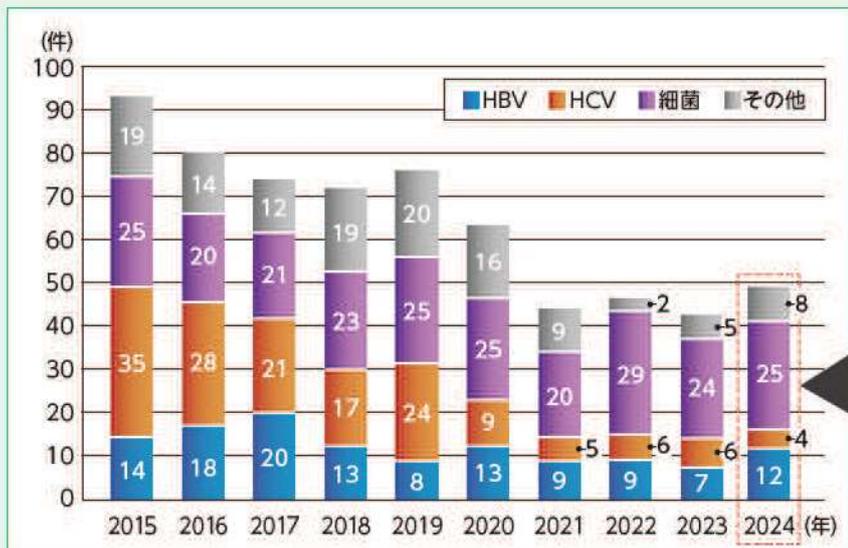


呼吸困難にはTRALI、TACOなどを含む

使用製剤の種類

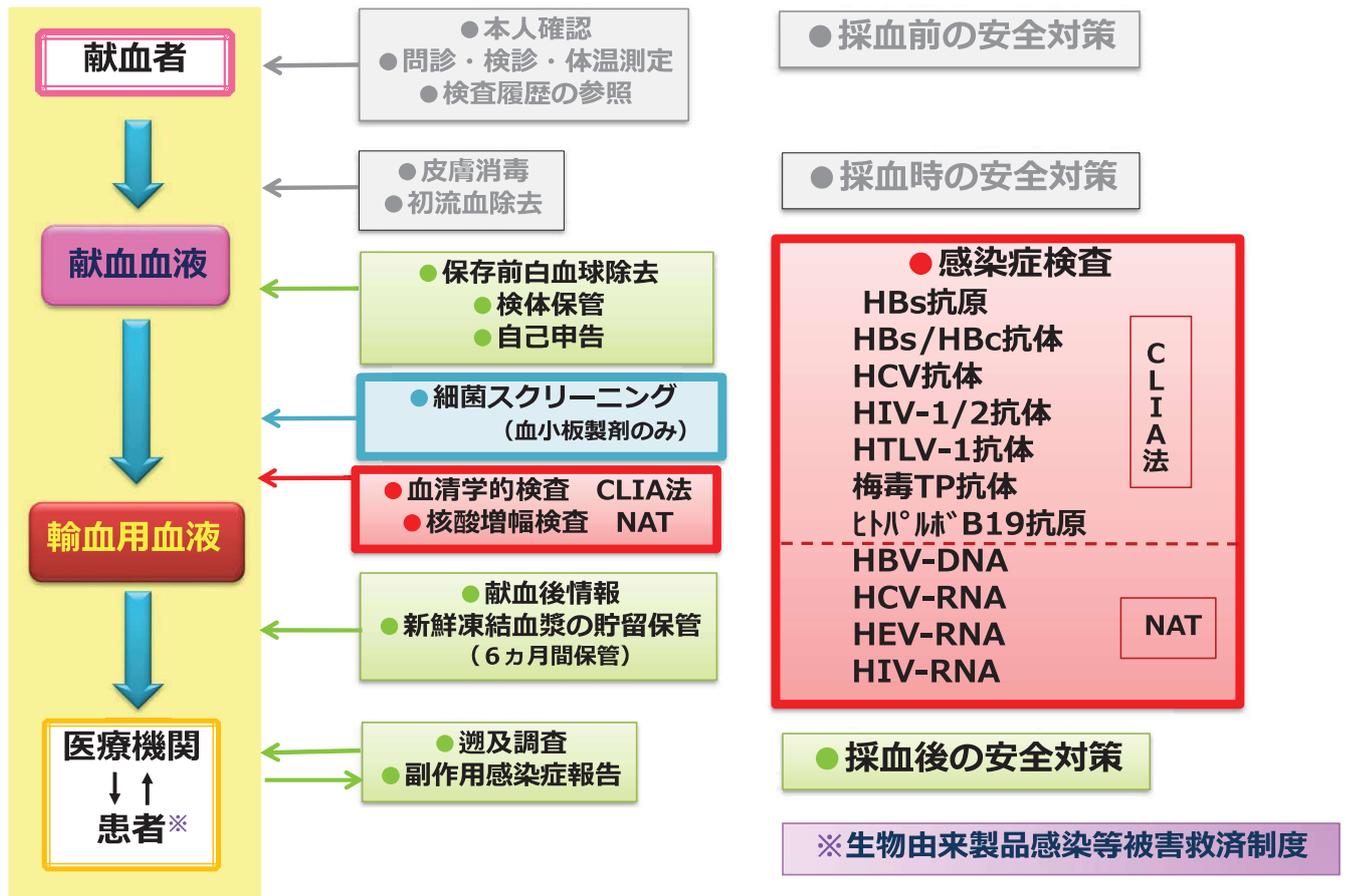


感染症報告件数 -2024年-



病原体	報告件数	特定
HBV	12	1
HCV	4	0
細菌	25	2
HEV	2	0
CMV	6	0
計	49	3

輸血用血液製剤の安全対策



ご静聴有難うございました

